

美しい景色を取り戻す為に

NPO法人創る村

東松島市でリーススクールと宅老所を運営する創る村は、民主主義時代に求められる人間全体の尊厳と、個人の尊厳という対極の両立をめざし、文化芸術教育の「創造」と「普及」に努めることを掲げ、平成十五年十一月にNPO法人を設立しました。

設立者で理事長の船屋善敏さんは、大学卒業後、学校教育に限界を感じ、関東で遊びと音楽を通じた独自の教育を実践していましたが、一九八〇年に宮城県に移り、いじめや不登校に悩む子供たちを受け入れ、音楽や遊びを通じて創造性ある子供をはぐくむ活動を行うため松島湾の野々島にリーススクール創る村を開設しました。その後、目の前に海が広がる美しい景色が見える東松島市新東名を拠点としてNPO法人を設立し、子供からお年寄りまで幅広く人が集い、教育、福祉、音楽、芸術、文化活動などを通して、一生涯を幸せに生きることができるようリーススクールや宅老所を運営しています。

突然の大津波

昨年、八人が入居できる宅老所と二人が介護サービスを受けられる高齢者向け施設「老葉子(らうらいし)の家」を新築することにしました。今年の三月に完成し、四月一日開所予定でしたが、

▼浸水した1階



県の事業業者認定が下りる寸前に大地震に見舞われ、1階の床上50cmで津波の被害に遭いました。

敷地内の他の施設でも、リーススクールの子どもたちの為に用意されていたピアノや陶芸窯、船など多くが津波に飲み込まれ、送迎用の車も流されてしまいました。

真っ黒い波が近隣の車や家を次々と飲み込んでいく中、スタッフ数名が濁流に流されていく女性を発見し、手をつかんで引き上げ、数百メートル先の崖の下に取り残されていた女性も船で救助しました。そして、数日間、無事だった老葉子の家の二階は、津波だけが残した方や、家や車に取り残されていた方など地域のひとと一緒に避難場所となりました。

震災後はライフラインが停止しており生活するだけで精一杯。ようやくこ

れからどうすれば良いかを考えられるようになったのが、震災から一か月以上過ぎてからのことでした。

施設再開に向けて

浸水した「老葉子の家」の一階は、窓ガラスが壊れ、床は泥が被り、エレベーターは動かず、と被害が大きく、改修が必要となりました。建設に四〇〇万円以上掛かり、さらに改修費用が一八〇〇万円以上の見積り、かなり高額です。活動を再開するため、理事長の船屋善敏さんをはじめ、全スタッフが募金や助成金の申請などに向けての奔走が始まりました。

何とか寄付も少しずつ集まり始め、申請している助成金の方も手応えが見えてきましたので、建物の改修に踏み出したところです。スタッフも「自分たちができることは自分たちでやる」とと工業者に交じって作業を手伝っています。

「老葉子の家の二階で、津波に流されて救助した人や近所の高齢者と共に過ごしたことで、事業開始前にもかかわらずスタッフの信頼関係が深まりました。それと同時に、この地域にはやはり高齢者のデイサービスや宅老所が必要だと再認識でき、何としても建物を直し、再開したいと思っています」と職員の間で波辺由美さんは、真剣な目で復興の決意を話します。

船屋さんは「どんな困難な道であっても、老人の尊厳を大切にすると社会を確立する仕事こそ今の私の使命だと思っているので、必ず再開させます。」と、熱い想いを語っています。東松島市でも仮設住宅の建設が始ま

っており、七月中には一、七六〇戸を完成させる予定です。創る村のある新東名地区は、避難所や仮設住宅で暮らしている方が多く、津波に耐え、スタッフや近所の方を守った老葉子の家が再開することは、地域全体の復興にも大きく関わってきます。その期待に応えようと、「必ず再開する」という思いを秘め、毎日、スタッフや各地から来てくれるボランティアと共に復興に向けて奮闘しています。創る村の皆さんの固い決意は、目標に向かって一歩一歩確実に進んでいます。

▼創る村の皆さん



NPO法人 創る村
〒九八〇-〇四一三
東松島市新東名四一六一
TEL: 〇二五-八八-三三三
FAX: 〇二五-八八-四一八
MAIL: tsukurunura@yob.ne.jp
URL: http://www.geocities.jp/tsukurunura/